

観光政策の現状と今後の取組み(考え方)

観光庁

- 1. 計画に関するこれまでの議論と今後の進め方**
- 2. コロナの感染拡大と観光を取り巻く社会状況の変化**
- 3. 新たな計画の方向性について**
（ご議論いただきたい事項）
 - ① 基本的な方針について**
 - ② 目標について**
 - ③ 講ずべき施策について**

1. 計画に関するこれまでの議論と今後の進め方

基本計画の改定に係るこれまでの経緯

- 令和2年4月17日 国土交通大臣から基本計画改定について諮問
- 令和2年5月11日 第36回観光分科会 ※書面開催
観光立国推進基本計画の改定について、現状の説明
- 令和2年8月27日 第37回観光分科会
観光関係団体から意見聴取 等
- 令和2年10月23日 第38回観光分科会
自治体・JNTOから意見聴取 等
- 令和3年3月2日 第39回観光分科会
感染拡大防止と観光需要回復のための政策プランについて 等
※計画については、令和3年度の適切なタイミングで改定することを説明
- 令和3年12月8日 第41回観光分科会
当面の観光政策の考え方（「四本の柱」） 等
※計画については、もう少し感染状況が落ち着き、中期的な計画を議論できる状況下で、具体的な検討を進めることを説明

1 国内交流の回復・新たな交流市場の開拓

- 観光需要の喚起（「県民割」の支援対象拡大、「全国旅行支援」等の実施）
- 新たな交流市場の開拓（ワーケーション、第2のふるさとづくり（何度も地域に通う旅、帰る旅）等）

2 観光産業の変革

- 積年の課題の解決（収益力強化、生産性向上、労働環境の改善等）
- デジタル技術の活用（観光客・観光産業・地域経営の視点）

3 交流拡大により豊かさを実感できる地域の実現

<「稼げる地域化」の観点>

- 宿泊施設・観光地の再生（地域関係者の一体性、観光消費拡大）
- 観光コンテンツ創出（地域資源の観光コンテンツ化）

<「持続可能な観光」の観点>

- ・地域資源（自然環境、伝統・文化、地場産業等）を保全しながら観光振興
- ・観光産業従業員の就業環境・待遇の改善・人材教育
- ・地域観光戦略の持続的なブラッシュアップ

} 住民理解、住んで良し訪れて良しの地域づくり

4 国際交流の回復・質的な変革

- 感染状況等を踏まえたインバウンド観光の拡大
- これまでの取組やコロナ後の旅行者の意識変化も踏まえた新たなインバウンド戦略の推進
 - ・消費額の増加（高付加価値層の誘致拡大等）
 - ・地方への誘客促進（サステナブル/アドベンチャーツーリズム等の「コト消費」の深化等）
 - ・魅力的な観光コンテンツ発信（自然、文化等の他、デジタルマーケティングも活用したガストロノミー、アート、庭園鑑賞など）

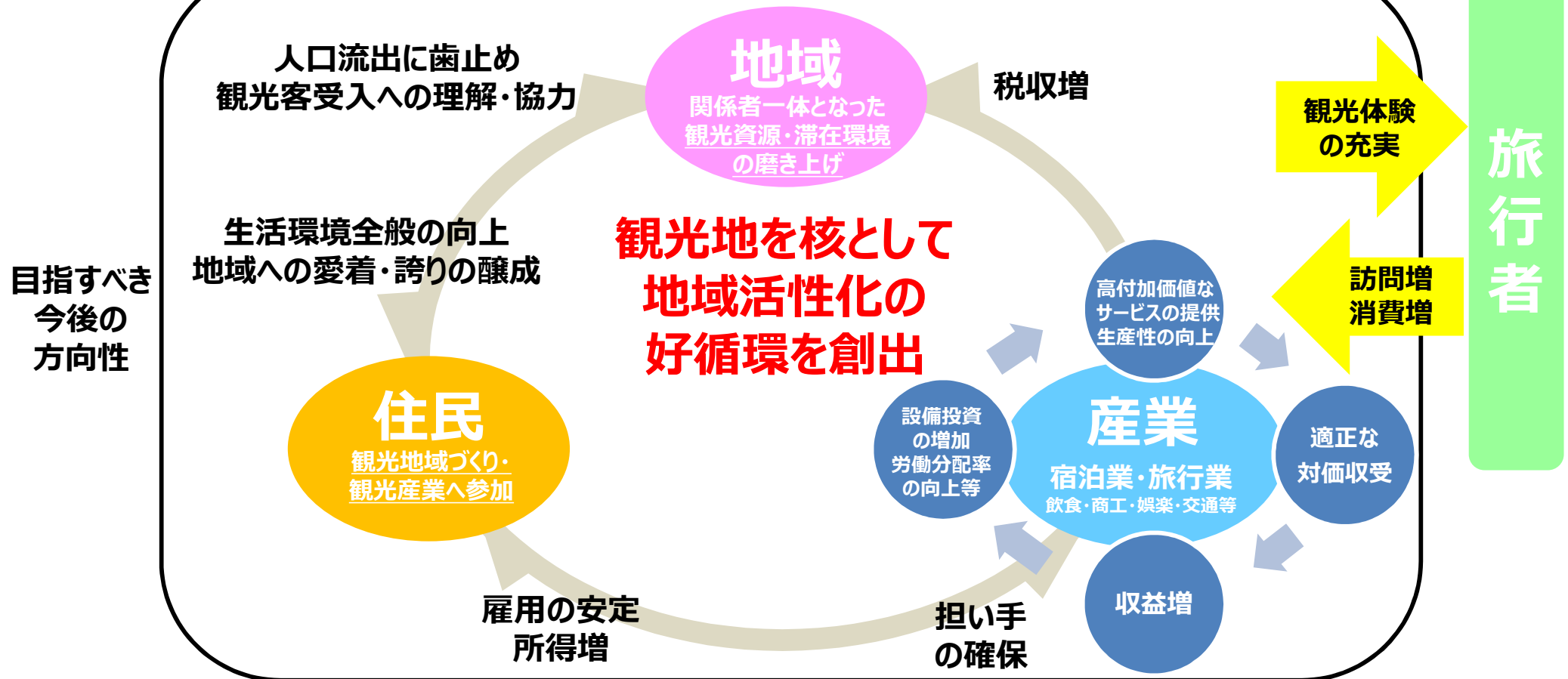
現状・課題

コロナ禍で観光需要が激減

旧来型事業モデルの行き詰まり

地方の観光地・産業の疲弊、地方の稼ぐ力の低下

観光地の再生・高付加価値化



令和4年10月11日（火） 観光立国推進閣僚会議 岸田総理ご発言

本日、コロナ対策の水際措置を大幅に緩和するとともに、国内では、全国旅行支援がスタートしました。

（中略）

観光立国の復活に向けて、次の3点の取組が重要です。

- 第一に、旅行消費の早期回復、特に、インバウンド消費については、円安の効果も生かし、速やかに5兆円超を達成することを目指し、関係省庁の政策を総動員して、総合経済対策に向けて、集中的な政策パッケージをまとめてください。
- 第二に、持続可能で高付加価値な観光産業の実現を目指し、本日いただいたご意見も踏まえ、総合経済対策に、宿泊施設のリノベーション支援を盛り込み、取組を加速させてください。
- 第三に、世界的な旅行需要の回復が見込まれ、大阪・関西万博が開催される2025年をターゲットに、我が国の観光を持続可能な形で復活させるため、新たな「観光立国推進基本計画」を、今年度末までに策定してください。

観光立国推進基本計画(観光ビジョンとの関係)

(2016.3決定)

明日の日本を
支える
観光ビジョン

2020年目標

4000万人
8兆円

2030年目標

6000万人
15兆円

計画目標に
反映

観光立国推進基本計画

第1次計画

2007～11年度
(5か年)

第2次計画

2012～16年度
(5か年)

第3次計画
(現行)

2017～20年度
(4か年)

次期
(第4次)
計画

2023～25年度
(3か年)を想定

次々期
(第5次)計画

2026～30年度
(5か年)
?

2022秋
検討開始

2023.3
策定予定

計画改定についての総理指示（10月11日）

【第43回観光分科会】 本日（11月7日）

新たな計画の方向性等について

【年内を想定】 令和5年度予算案 閣議決定
デジタル田園都市国家構想総合戦略（仮称） 決定

【第44回観光分科会】 令和5年1月

計画骨子の提示・目標について

【第45回観光分科会】

2月

計画素案について

（パブリックコメント）

【第46回観光分科会】

3月

計画案について

閣議決定（3月末）

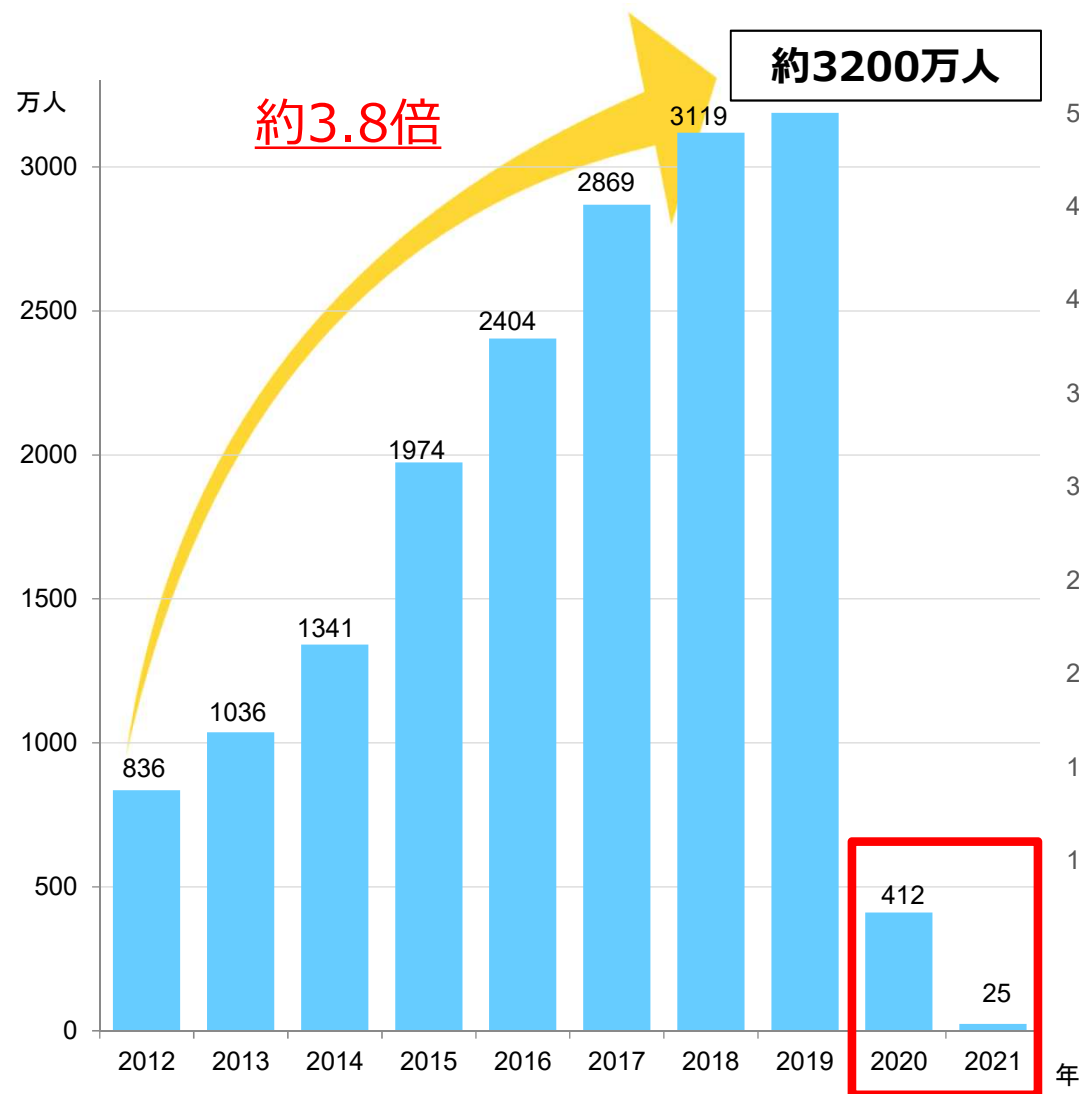
2. コロナの感染拡大と観光を取り巻く社会状況の変化

インバウンドの推移と新型コロナの影響

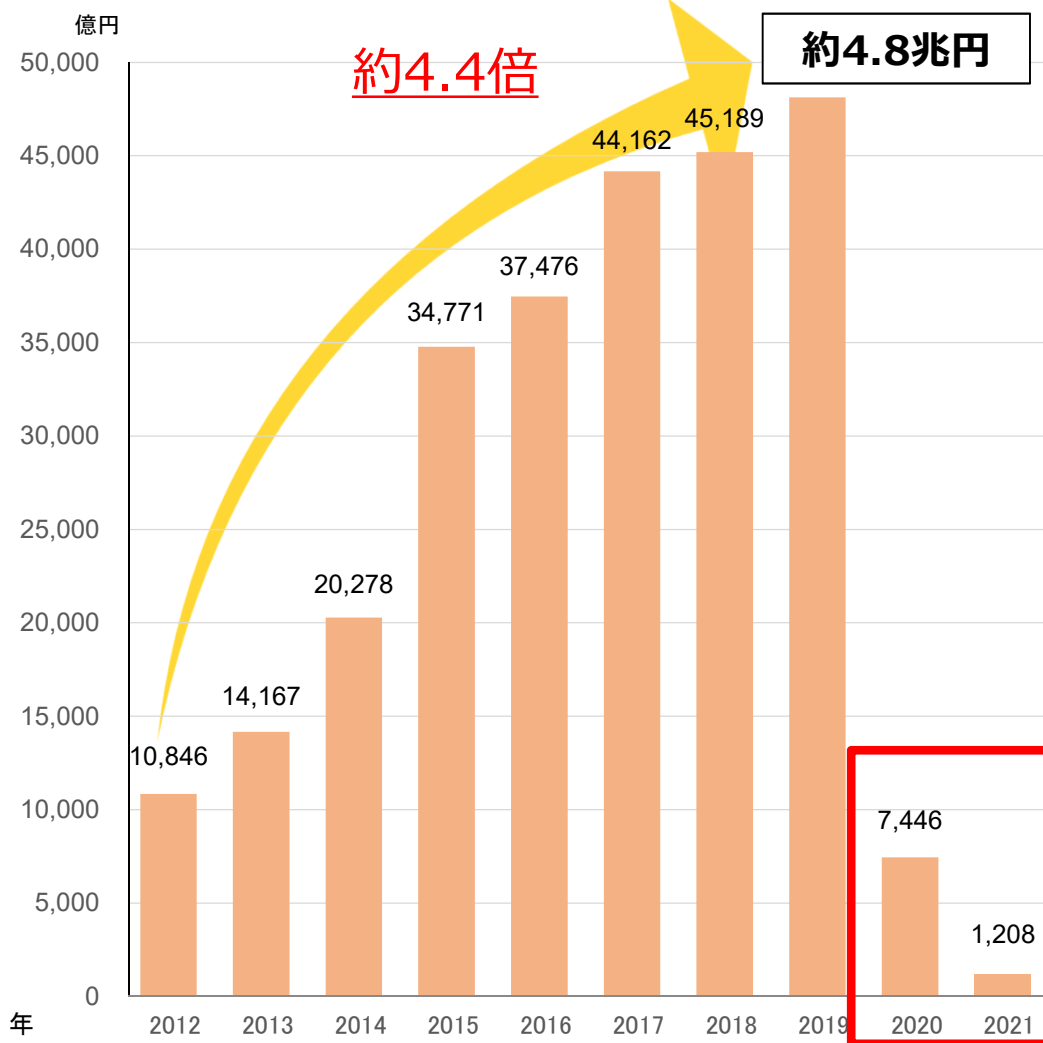
- 2019年まで、訪日外国人旅行者数（約3200万人）と消費額（約4.8兆円）は飛躍的に増加
- 新型コロナの影響により、2020年以降、大幅な落ち込み

※アジア太平洋地域の航空旅客数の2019年水準への回復は2025年との国際機関（IATA）の予測あり

訪日外国人旅行者数の推移



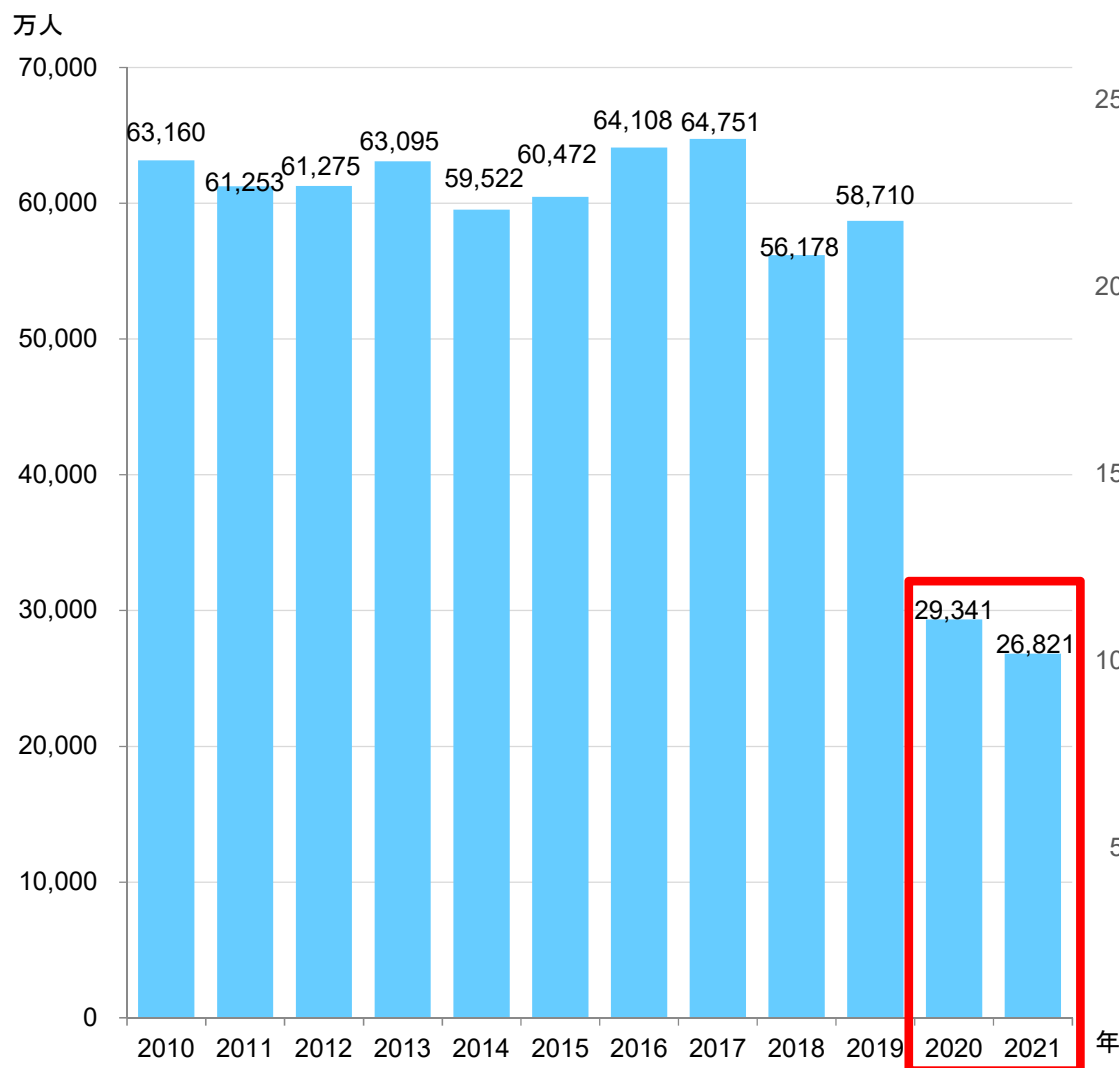
訪日外国人旅行者による消費額の推移



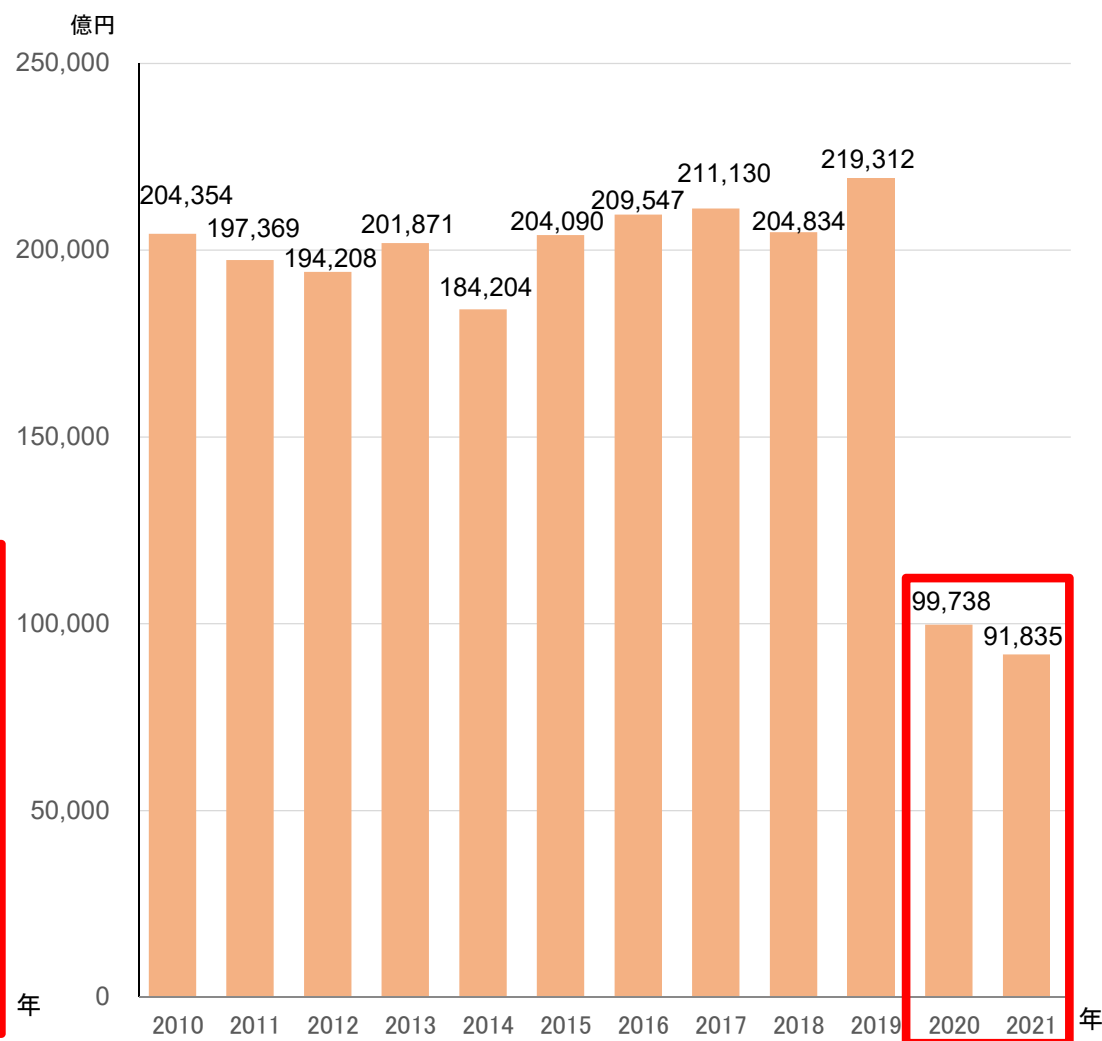
国内旅行の推移と新型コロナの影響

- 国内の旅行者数・消費額は横ばいで推移しており、今後も人口減少の影響を受ける
- 新型コロナの影響により、2020年以降、およそ半減

日本人国内延べ旅行者数の推移

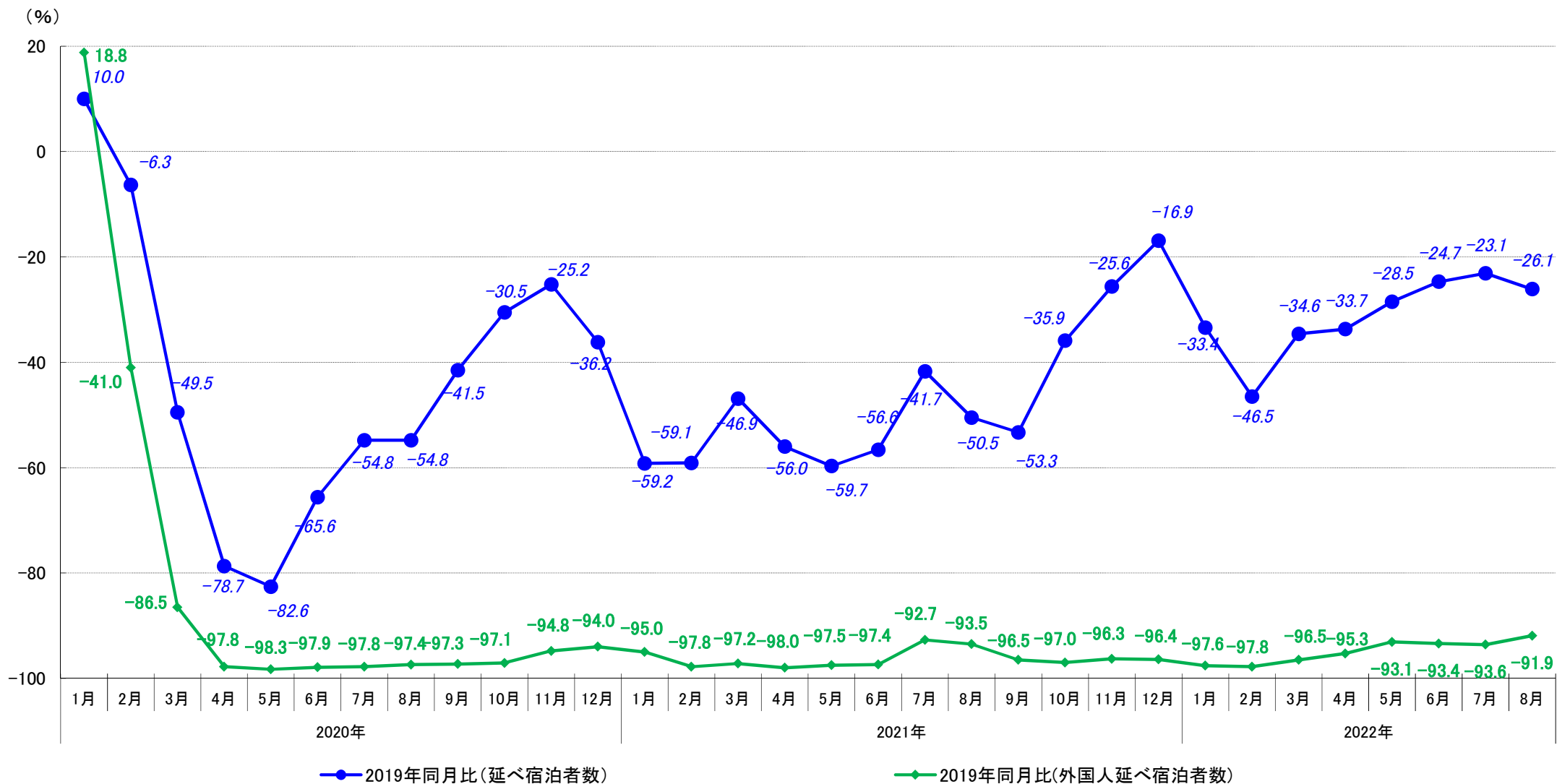


日本人国内旅行消費額の推移



新型コロナの国内旅行への影響(延べ宿泊者数推移)

○延べ宿泊者数2019年同月比の推移



※2022年8月の数値は第1次速報値であり、2022年10月31日公表予定の第2次速報値で変更となる可能性がある。

出典:観光庁宿泊旅行統計調査(令和4年7月・第2次速報、令和4年8月・第1次速報)

新型コロナウイルス感染拡大による国内全体の旅行消費への影響

2019年（令和元年）：27.9兆円

2021年（令和3年）：9.4兆円

インバウンド旅行
4.8兆円

その他
1.2兆円（4.3%）

（17.2%）

（78.5%）

日本人国内旅行
21.9兆円

▲約5兆円

インバウンド旅行
0.1兆円

その他
0.1兆円（1.2%）

（1.3%）

（97.5%）

日本人国内旅行
9.2兆円

▲10兆円以上

- 国内旅行は、消費額の目標を前倒しで達成
- インバウンドは、旅行者数が約 8 割、消費額と地方誘客は約 6 割の達成率

	(2019年実績)	(2020年目標)	達成率
日本人国内旅行消費額	21.9兆円	21兆円	104%
訪日外国人旅行者数	3,188万人	4,000万人	79%
外国人リピーター数	2,047万人	2,400万人	85%
訪日外国人旅行消費額	4.8兆円	8兆円	60%
地方部での外国人 延べ宿泊者数	4,309 万人泊	7,000 万人泊	61%

○ コロナ前には、急激なインバウンドの増大により、一部地域において、以下のような課題が見られた

各地域における課題

<混雑>

【地域住民が鉄道に乗車できない】

○ 鎌倉市内では、観光客が多い時期は、沿線住民が電車に乗車できない場合があった（最長約 1 時間待ち等）。



江ノ電の混雑状況

【クルーズ船着港時の交通渋滞】

○ 博多市内では、クルーズ船着港時、観光バスによる交通渋滞が発生していた。

<マナー違反>

【路上等へのゴミのポイ捨て】

○ 小樽市では、観光客が路上等に捨てたゴミを地域住民が拾う状況にあった。



観光客のゴミを拾う住民

【畑への無断侵入】

○ 美瑛町や富良野市では、農家の私有地である畑や花畑に無断侵入し、インスタ映えを狙って写真撮影に興じる外国人観光客が多数に上った。

コロナによる変化:「持続可能な観光」への関心の高まり

- コロナ禍を経て、**旅行者の持続可能性への関心や、自然・アクティビティに対する需要が高まっている**

「当面の旅行について、よりサステナブルな旅を心がけたい」: **71%**

※世界32か国約3万人を対象とした調査の回答結果

出典: Booking.com "Sustainable Travel Report 2022" (2022年2月)



プラスチックごみを回収するクルーズツアー (オランダ)



環境負荷の抑制や地元雇用に取り組むエコロッジ (フィンランド)



住民が観光客をおもてなし (カナダ・フォーゴ島)

自然・アクティビティに対する需要の高まり

※コロナ以前と比較し、キャンプ場や貸別荘のような宿泊施設に関する検索が増加

出典: Tripadvisor, beyond COVID-19: The Road to Recovery for the Travel Industry (2020/5)



アドベンチャーツーリズム

世界のアドベンチャーツーリズム市場規模は、2026年には**173兆円まで成長**との予測あり
⇒**ツーリズム産業の成長を牽引**

※出典: Allied Market Research



グランピング



アクティビティ

3. 新たな計画の方向性について **（ご議論いただきたい事項）**

① 基本的な方針について

- 人口減少を迎えている我が国において、**国内外からの交流人口を生み出す観光は、成長戦略の柱、地域活性化の切り札**として期待されている**重要な分野**

国内交流拡大戦略

- 国内需要喚起策
- **第2のふるさとづくり**(継続した来訪の促進)
- ワークেশョン

インバウンド回復戦略

- インバウンドV字回復に向けた**集中的取組**
- **消費額増加と地方誘客の促進**
- **高付加価値なインバウンドの誘致**

高付加価値で持続可能な観光地域づくり戦略

- 宿の改修等、**観光地・観光産業の再生・高付加価値化**
- 自然、文化の保全と観光の両立等、**持続可能な観光地域づくり**
- 地域に根付く**観光資源の磨き上げ、観光DX**

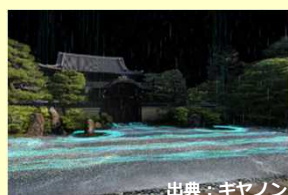
インバウンドのV字回復に向けた2025年までの集中的取組

第16回観光立国推進閣僚会議提出資料

- 2025年に向けて、インバウンドのV字回復を図るため、全国津々浦々で観光回復の起爆剤となる取組を集中的に実施
- 地域の関係者の発意による特別な体験や期間限定の取組等を全世界に発信しつつ、モデルツアーの造成も通じ、誘客の促進につなげる

※個々の取組は、イメージ

特別な体験の提供



建仁寺での最新技術を活用した映像体験
(京都府)
2022年



姫路城世界遺産登録30周年
天守等の限定公開
(兵庫県)
2023年



明王院五重塔の内部公開
(広島県)
2024年



明日香村教育委員会
都塚古墳の内部公開
(奈良県)
2022年



弘法大師生誕1250年
座像の限定公開
(和歌山県)
2023年



正倉院関連イベント
(奈良県)
2025年

大自然の魅力を活かした新たな体験の提供



阿寒摩周国立公園での
夜間イベント (北海道)
2022年



高級ホテルの開業予定 スノーリゾートに
ニセコ町 (北海道) おけるゴンドラ増設
(長野県)
2023/2024年



黒部宇奈月キャニオンルート
開業 (富山県)
2024年

イベントをフックとした誘客の促進



ジブリパーク開業
(愛知県)
2022年11月



「和食」
世界遺産登録10周年
2023年



世界遺産登録を目指す
「伝統的酒造り」
2024年



世界陸上
瀬戸内国際芸術祭
2025年

広告展開イメージ

10月11日から個人旅行や査証免除が再開
となり日本の観光が再始動します

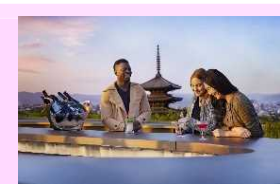
WELCOME BACK to JAPAN !

Visa-free entry for individual travellers resumes on October 11

SNSによる歓迎メッセージの発信



テレビCMによる日本の魅力の発信



オンラインによる未訪日層に向けた展開

- 宿泊施設のリニューアルや廃屋撤去、DX化など、観光地・観光産業の高付加価値化の取組を推進し、地域の「稼ぐ力」の回復・強化を図る



観光地の面的再生に資する宿泊施設の大規模改修支援の例
(山形県天童温泉「天童荘」)



※撤去後の施設整備は、イメージ

観光地の景観改善等に資する廃屋の撤去支援（伊香保温泉）



面的DX化支援

持続可能な観光(観光SDGs)の推進

世界的な潮流に対応した観光

従来の旅行形態

地球環境に配慮した旅行

- ・カーボンニュートラルな移動
(CO2削減に資する交通手段の活用、徒歩観光、サイクルツーリズム等)
- ・省エネ、プラゴミ削減等に取り組む宿泊施設の利用

旅行先としての国際競争力の低下

地球環境に配慮した 観光事業者・旅行者の取組促進

観光事業者・旅行者の地球環境に配慮した自発的な取組の推進に向け、関連事例の調査、普及啓発、認知度の向上を図る。

日本ならではの観光資源を活用した持続可能な観光地域づくり

地域に根付く観光資源

- ・自然環境、風景
- ・文化、伝統、歴史
- ・地場産業（農業、林業、伝統工芸等）

人口減少・過疎化に伴う風化・消滅

コンテンツの造成・工夫、
受入環境整備

一部の企業のみ裨益
地域社会全体の活性化に繋がらず

DMO等担い手の育成

持続可能な観光戦略策定、
効果検証

一過性の取組み

住民理解の確保

日本版持続可能な
観光ガイドラインの活用

観光従事者の担い手確保、
労働環境改善

オーバーツーリズム、
マナー違反等

地域一体となった
取組み

観光従事者の
担い手不足

コンテンツの造成・工夫、 受入環境整備

日本ならではの地域の観光資源（自然、文化・歴史、地場産業等）を保全・活用したコンテンツの造成・工夫を通じ、観光振興が地域社会・経済に循環する仕組みづくりを行うとともに、地域の資源の持続可能性や価値をさらに高めるための受入環境の整備を図る。

マネジメント体制の構築

国際基準に準拠した「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」（R2.6）を活用し、地方公共団体やDMOがデータ計測と中長期的な計画に基づき、オーバーツーリズムの未然防止等を図りつつ、地域・旅行者の双方がメリットを享受・実感できる地域づくりの推進及び担い手の育成を図る。

- 観光により全国各地で地域活性化を図るとともに、持続可能な形で観光を復活させる
- 国内旅行の回復を図りつつ、消費額・地方誘客を重視したインバウンドの本格回復を目指す
- インバウンドのV字回復に向け、円安の効果も生かし、集中的な取組の展開や観光地の再生・高付加価値化等の取組を推進する
- 世界的な旅行需要の回復が見込まれ、大型イベントも予定される2025年に向けて、計画的に取組を推進する

大阪・関西万博2025

- ・20年ぶりの日本開催
- ・想定来場者数 2,820万人
(うちインバウンド350万人)



©提供：2025年日本国際博覧会協会
(会場イメージ)



©出典：経済産業省ウェブサイト
(https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/robot/181220uamroadmap.html)
(空飛ぶクルマの実験場)

世界陸上2025（東京）

- ・18年ぶりの日本開催
- ・世界中のアスリートが集結



Copyright : JAPAN SPORT COUNCIL
(国立競技場)

全国各地



© Studio Ghibli
(ジブリパーク：2022年11月開業)



草間彌生「赤かぼちゃ」2006年
直島・宮浦港緑地 写真/青地 大輔
(瀬戸内国際芸術祭：2025年)

3. 新たな計画の方向性について **（ご議論いただきたい事項）**

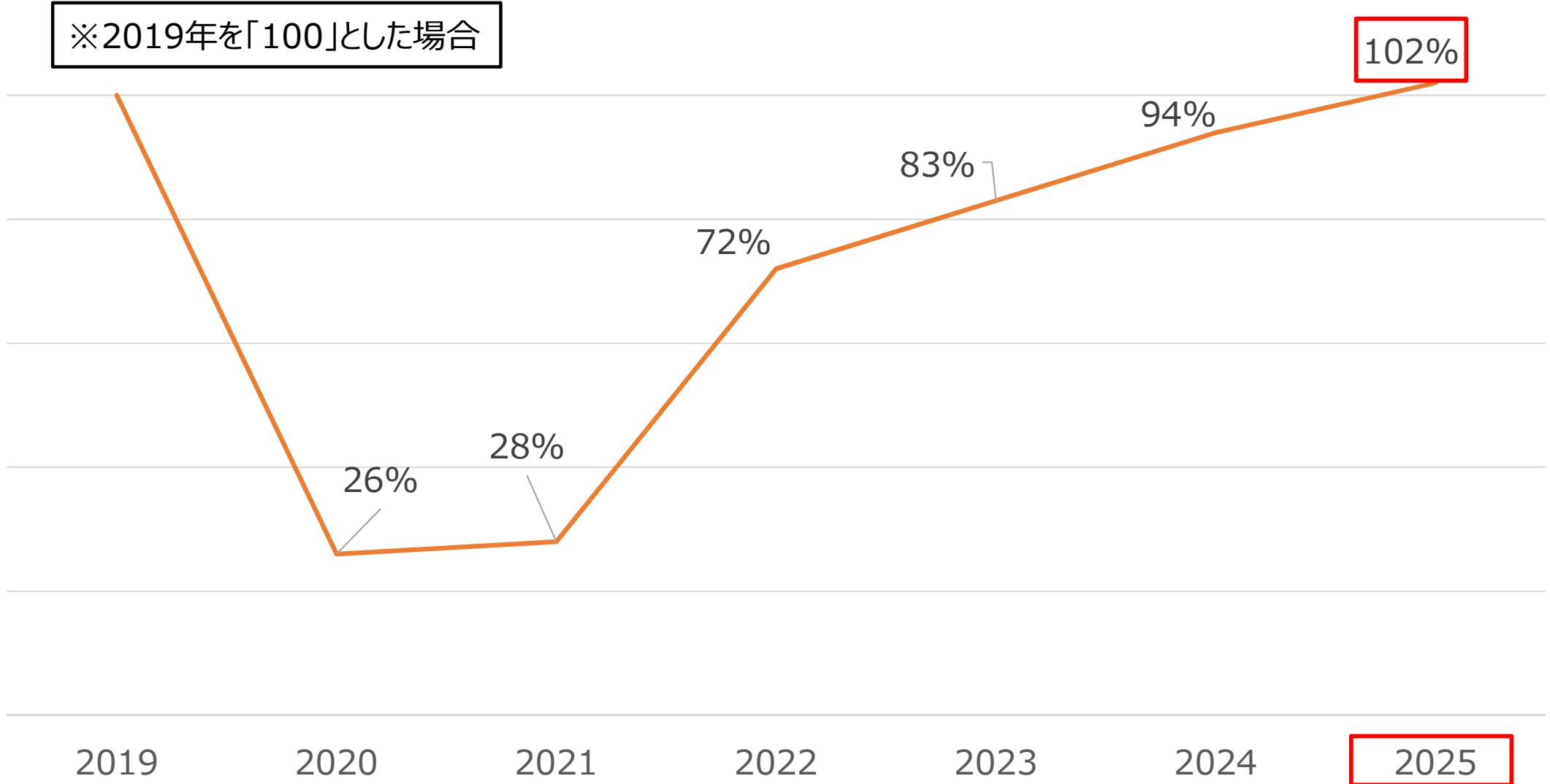
② 目標について

国際機関(IATA)の予測 ※メディアリリースの内容から引用

- 世界全体の国際航空旅客数の**2019年水準への回復は、2025年**との予測
- 地域別にみると、**アジア太平洋地域は回復が遅い**地域との予測

世界全体の国際航空旅客数（予測）

※2019年を「100」とした場合



<インバウンド>

- 世界的な旅行需要の回復が見込まれ、大阪・関西万博が開催される**2025年**に、**コロナ前の状況（2019年水準）に回復させる**ことを基本としてはどうか。
- その上で、**旅行消費額については、速やかに5兆円超の達成を目指す**としていることから、2019年水準より**一歩踏み込んだ目標**としてはどうか。
- また、コロナ前の状況を踏まえるとともに、**地域活性化の推進を図る観点から、地方誘客**についても2019年水準より**一歩踏み込んだ目標**としてはどうか。
- その際、**旅行消費額と地方誘客**について、**人数に依存しない指標で目標を設定**してはどうか。

	〔 2019年実績 〕		〔 第3次計画における 2020年目標 〕
旅行者数	3,188万人		4,000万人
旅行消費額	4.8兆円 (15.9万円/人)	5兆円	8兆円 (20万円/人)
地方部での延べ宿泊者数 (地方誘客)	4,309 万人泊 (1.35泊/人)		7,000 万人泊 (1.75泊/人)

論点①
2025年目標の水準

論点②
人数に依存しない指標とするか

<国内旅行>

- 国内旅行消費額は、2020年21兆円を目標としていたが、**2019年に達成**（約21.9兆円）。今後とも人口減少の影響を受けるが、新たな需要の開拓等を見込んで、**2019年実績よりも一歩踏み込んだ目標**としてはどうか。

（※注） 今後の我が国の人口減少の見込み

2017年比で**2065年には約30%減少、2025年までにも約3%減少**。

2017 国立社会保障・人口問題研究所より

<持続可能な観光>

- 2025年目標として、**新たに「持続可能な観光」に関する目標**を設定してはどうか。
（例：持続可能な観光に取り組む地域数）

3. 新たな計画の方向性について **（ご議論いただきたい事項）**

③ 講ずべき施策について

インバウンド回復戦略

消費額・地方誘客を重視したインバウンドの本格回復を目指す

- 特別な体験の提供の全世界への発信
(観光再始動事業)

<コンテンツ創出>

- 歴史的資源を活用したまちづくりの促進
- ガストロノミー（美食）ツーリズムや酒蔵ツーリズムの推進
- 地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成
- 日本博・日本遺産、文化財等の活用促進
- アートの国際拠点化、国際的な芸術祭の活用
- 魅力ある公的施設の開放・公開・誘客促進
(三の丸尚蔵館、正倉院、迎賓館等)
- 国際競争力の高いスノーリゾートの形成促進
- 地域のコンテンツ連携促進
(長期滞在者向け周遊ルートの形成促進)
- 国立公園等の魅力向上、都市公園の整備
- 滞在型農山漁村（農泊）の推進
- サイクルツーリズム等、スポーツの推進
- ガーデンツーリズムの推進

<高付加価値なインバウンド観光の推進>

- 高付加価値旅行者誘客支援
- カジノ規制の実施を含めたIR整備
- 国際会議及びインセンティブ旅行誘致力向上

<プロモーション>

- 戦略的プロモーションの実施
(大阪・関西万博との連携、デジタルマーケティング等)
- 外国人旅行者向け免税制度の利用促進

<受入環境整備>

- 受入環境整備（人材育成、キャッシュレス化等）
- 地方空港における国際線の再開等に係る支援
- CIQ体制の更なる充実
- 戦略的な査証緩和
- 国際拠点空港・クルーズ環境等の整備

<国際相互理解の増進>

- 二国間の観光交流の取組の推進

国内交流拡大戦略

国内旅行の回復を図りつつ、新たな交流需要の開拓を進める

- 国内需要喚起
- 新たな需要の開拓
 - ・ ワークেশンの推進
 - ・ 第2のふるさとづくり「何度も地域に通う旅、帰る旅」
 - ・ ユニバーサルツーリズムの推進
- 観光地におけるMaas等の新たなモビリティサービスの導入促進
- 観光需要の平準化

高付加価値で持続可能な観光地域づくり戦略

観光により全国各地で地域活性化を図るとともに、持続可能な観光地域づくりを進める

- 宿泊施設のリノベーション等、
観光地の再生・高付加価値化
- DX・事業者間連携・構造的課題の解決等による
観光地・観光産業の収益性、生産性向上
- 観光地・観光産業再生のための人材育成
(デジタル人材・高度経営人材等)
- 観光地域づくり法人(DMO)の体制整備
- 持続可能な観光地域づくり
 - ・ 地球環境に配慮した旅行の推進（普及啓発、宿泊施設等の省エネ対策促進等）
 - ・ 自然、文化等の保全に配慮したコンテンツ造成等の推進（サステナブル／アドベンチャー等）
 - ・ マネジメント体制の構築、受入環境整備
- 観光地域における良好な景観の保全
- 高付加価値な観光コンテンツ造成

その他

- 日本人の海外旅行の促進（アウトバウンド）